



ココロさんの ひとりごと

2020年9月 No.14

予測不能な時代を生きる子どもたちへ

今年度も約半年経ちました。例年とは違う新しい生活様式になり、窮屈な思いやすっきりしない気分を味わうことも多かったと思います。

しかし、いろんな行動に制約がある中でも今できることに焦点をあて、知恵を絞り、試行錯誤をしながら、ポジティブな発想や新しい楽しみ方など世の中の動きを見ると、人間の底力はすごいと感じます。

今回の感染症流行下において、先を見通せると、私たちは安心して過ごせるということが改めて感じられました。普段私たちは、自分の行動を決める時、無意識に自分のやりたい理想、今の自分の力、それに伴う物理的制約（時間、費用）、結果の予想などを想起し、それに向かう行動計画を立てて動いています。しかし今回のような、今まで体験したことがない状況下で様々な条件が加わるため、結果の予想が難しく、様々な不安を生むことにつながっています。

今の状況下で大人は「この先が分からない状況で自分の行動を選択する」という不安を体験していますが、思春期、青年期の子どもたちが日頃体験していることと似ている部分があります。

子どもたちは、「この行事に参加したら、どんな体験ができるだろう」「この進路を選んだら、どういう体験をするのだろうか」と想像するときに不安を感じやすいのです。

大人は起きるすべてのことまで予測できませんが、今までの体験からこの先を想像したり、情報を得る術を身につけているので、子どもたちに比べるとイメージがやすく、対処法も多彩にもっているため「なんとかなる」と思えることが多いでしょう。

子どもたちは、これを選んで、もし、不測の事態に対応できなかつたらどうしようと不安になります。大人のもつ「うまくいなくても、なんとかなる」感覚を身につけておくことが必要となります。しかし、これは教えても身につくものではありません。やはり、失敗してもう一度やり直す体験を実際にたくさん積むことが必要です。イメージ通りにいかないことがさほど怖くなくなれば、試行錯誤ができるようになり、いろんなチャレンジが可能になり、使える選択肢がぐんと増えます。

また、周りの人の協力を得たり、情報を集めるために他者に自分のしたいことを伝える力をつけることも大切です。自分のやりたいことを見つけるために日頃から「自分の好みは何かを思い浮かべる」習慣をもつことも大切です。

予測不能な時代を生きていく子どもたちへ、主体的に自分の人生を選べる力を育ててあげたいものです。

日常の小さな事柄から、自分の好みを知り、選ぶことから少しずつ大きな選択へとつながっていきます。日々の生活の中で、今までなんとなく決めていたこと（食事のメニュー、服の色など些細なこと）から、少しずつ意見を表明できる場を設けてみてください。

